



# 丹波だより 4月号

指宿市立丹波小学校  
令和5年4月10日発行  
児童数505名

【学校教育目標】「大きな夢の実現のために、心豊かで、たくましい丹波の子を育てる」

【校訓】丹波魂 「よく考える すすんで実行する 最後までやりぬく」

【めざす子どもの姿】「たがいに知恵を出し合う子」

「明るく、思いやりのある子」

「根気強く体をきたえる子」

〔住所〕指宿市湯の浜3丁目2-6

〔TEL〕0993(22)3011

〔FAX〕0993(22)2192



〔学校ホームページ〕  
※ブログもご覧ください



## 子供の頃から教えられてきたこと

学校長

新1年生81名が入学し、全校児童505名で丹波小学校の令和5年度がスタートしました。春休み期間、大きな事故やけが等もなく、元気に新年度を迎えられたことに感謝申し上げます。

先月開催されたWBC（ワールドベースボールクラシック）は、「侍ジャパン」の3大会振りの優勝で、熱狂のうちに幕を閉じました。今大会は、日本野球の強さ、レベルの高さが証明された一方、選手たちが見せた行動や所作により日本文化の素晴らしさが賞賛されたことも大変うれしいことでした。

例えば、日本ベンチにはごみ一つなくバットやグローブが整然と並べられていたこと、死球を与えてしまった投手が翌日訪問し、その誠意ある行動が相手方を感激させたこと、準決勝のサヨナラ勝ちで歓喜した選手たちが、しばらくすると線上に整列してスタンドの日本のファンだけでなく、相手国選手、ファン双方に脱帽して深々と一礼したこと、大会後に室内で撮影された記念写真の背後に、靴が同じ方向を向いて揃えられていたことなど、外国のメディア等が驚きと感動をもって報じました。

あいさつやお辞儀をする、掃除や整理整頓をする、ごみ拾いをする、など、幼少時から親に身につけられたり、学校で教えられたりして、大人になるまでに身に付けていきます。習い事やクラブ活動、部活動などにおいても同様に教わっています。私たちにとって至極当たり前のことであり習慣になっていることが、世界から見れば尊敬に値することと映るようです。

「来たときよりも美しく」「次、使う人が使いやすいように」といった私たちが昔から教えられてきたことは、自分たちの心を整えることになり、だれかへの「思いやり」「リスペクト」にもつながることなんだと改めて思うことでした。

さて、始業式の日の靴箱を見てみると・・・美しく整然と並んでいました。立派です。あいさつは「相手を見て、声を出して、自分から」を指導し続けます。（あいさつは、まだまだ「要改善」）

今年度も保護者、地域の皆様方の御理解・御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

【写真：6年生の靴箱(4月6日)】



## 1学期始業式「児童代表のこたば」6年1組

今日から新しい学年での学校生活がスタートします。私にとっては小学校生活最後の1年です。この年がよい1年になるように、また、充実した1年になるように3つの目標を決めて頑張っていきたいと考えています。

1つ目は、あいさつをすることです。私は、初めての人や久しぶりに会う人に対して、緊張してあいさつができないことがあります。あいさつはコミュニケーションの第一歩なので、自分からあいさつすることを心がけます。

2つ目は、勉強を頑張ることです。学校で学習することは将来に役立つ大切なことです。学習したことは理解できるよう、その日のうちに復習します。そして、自分ができるようになったことは、友達にも分かりやすく教えてあげられるようになりたいです。

3つ目は、新しい友達を作ることです。5年生ではクラスのみならず仲良くできました。6年生になってクラス替えがあったので、これまで話すことがなかった人に積極的に話しかけて友達を増やしたいです。

今日から6年生という自覚をもって、けじめのある学校生活を送りながら、思い出いっぱい1年にしたいです。そして、「頼れる6年生」を目標にして頑張っていきます。



